

平成28年度 松江第四中学校 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果と分析

◆各教科の結果分析及び課題解決に向けた対策

国語

〈現状把握〉

全体的には、都の平均より5.3%下回っている。項目別では、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」と差があまりなく、都平均に近い。しかし、技能「書く」13.7%、知識・理解「言語」9.2%と都平均との差が開いている。

〈授業改善プラン〉

- ・「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」は、継続してスピーチや漢字学習など達成感をもたせていき、向上につなげていく。
- ・技能「書く」の力をつけていくために、授業感想を書かせたり、発表するための原稿を書いたり、書く活動の工夫を施していく。また、様々な文章に触れていくなど、読み取る力や語彙の力を見直していく。
- ・「知識・理解」を定着させるために、単元テストや漢字テストなど基礎力を身に付けさせていく。

社会

〈現状把握〉

全体としては都の平均値より1.1%下回っている。項目別では、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」は都の平均値を上回っているが、一方で「技能」は2.8%、「知識・理解」は0.3%下回っている。読み解く力に関しては、いずれの項目も都の平均値を下回っている。

〈授業改善プラン〉

- ・「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」は、さらに高めていくために、継続してグループによる話し合い活動を取り入れていく。
- ・「技能」を身につけるために、普段から地図や資料を活用した授業を行う。
- ・「知識・理解」を定着させるために、単元ごとに小テストを実施する。また授業内で問題集を繰り返し解くなどの工夫をする。

数学

〈現状把握〉

全体的には都の平均値に比べ、-4.9%の差がある。比較的「関心意欲態度」は差が小さく都の平均に近い。「解決する力」においては+3.7%と都の平均を上回っている。しかし、ほかの項目に至っては約-5.5%となっており、改善が必要。中でも「取り出す力」と「知識・理解」はそれぞれ-6.9と-7.9と差が大きい状況である。

〈授業改善プラン〉

- ・「知識理解」を高めるため、数学的な言葉や用語の意味をきちんと押さえ、授業内でこれらの言葉を意識的に多く使っていく。
- ・「取り出す力」を身につけるために、類似の文章問題に多く取り組み、問題の意図を読み取る練習を繰り返し行う。

理科

〈現状把握〉

全体としては、都の平均値より2.5%下回っている。項目別では、「意欲・関心・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」が都より5%以上下回っている。一方で、「知識・理解」は、2.6%上回っている。読み解く力に関しては、いずれの項目もとの平均値を下回っている。

〈授業改善プラン〉

「思考・判断・表現」は、実験をより増やすことで、考えさせて、発表やレポートを作成する時間を増やす。実験で体験させて、関心をもたせ、「意欲・関心」につなげる。

英語

全体としては、都平均値より5.7%下回っている。昨年度よりも1.8%ダウンした。「関心・意欲・態度」においては昨年度より3.9%上がったが、今年度と平均値との差は-4.3%。「思考・判断・表現」ではと平均値との差が-6.7%。書く力が足りない。「知識・理解」は昨年度よりと平均値との差は縮んだが、「技能」においては、差が開いてしまっている。「読み解く力に関する内容」は3項目とも昨年度よりやや落ちている。

〈授業改善プラン〉

「技能」においては、ALTの授業を継続して評価制にし、意識を高め、他の項目と同時に表現や理解のスキルアップも図る。ある程度まとまりのある長さの英文を、教材を活用して習慣化する。基本的事項を繰り返し徹底的に学習し、身につかせ、それらを含むリーディングやリスニングの応用問題に挑戦させ、スキルアップを図り自信をもたせる。

◆各教科の調査結果（正答率：％）

教科	A 教科の内容			B 読み解く力に関する内容			AとBの合計		
	本校	東京都	差	本校	東京都	差	本校	東京都	差
国語	67.8%	72.9%	-5.1%	52.8%	59.3%	-6.5%	65.4%	70.7%	-5.3%
社会	56.7%	57.6%	-0.9%	56.4%	58.1%	-1.7%	56.6%	57.7%	-1.1%
数学	56.1%	61.5%	-5.4%	33.9%	36.7%	-2.8%	51.5%	56.4%	-4.9%
理科	55.9%	57.7%	-1.8%	40.2%	45.3%	-5.1%	52.3%	54.8%	-2.5%
英語	50.4%	55.7%	-5.3%	47.1%	54.1%	-7.0%	49.7%	55.4%	-5.7%

◆観点別の調査結果（正答率：％）

教科	A 教科の内容												B 読み解く力に関する内容											
	関心・意欲・態度			思考・判断・表現（国語：話す・聞く）（英語：外国語表現）			技能（国語：書く）（英語：外国語理解）			知識・理解（国語：言語）			読む			取り出す力			読み取る力			解決する力		
	本校	東京都	差	本校	東京都	差	本校	東京都	差	本校	東京都	差	本校	東京都	差	本校	東京都	差	本校	東京都	差	本校	東京都	差
国語	94.9%	96.9%	-2.0%	79.2%	82.5%	-3.3%	49.0%	62.7%	-13.7%	58.7%	67.9%	-9.2%	72.9%	76.2%	-3.3%	60.5%	65.3%	-4.8%	51.8%	61.3%	-9.5%	38.5%	45.5%	-7.0%
社会	94.3%	93.1%	1.2%	57.1%	56.9%	0.2%	58.3%	61.1%	-2.8%	46.7%	47.0%	-0.3%				52.1%	54.8%	-2.7%	57.7%	59.9%	-2.2%	59.3%	59.5%	-0.2%
数学	88.1%	89.5%	-1.4%	38.0%	43.2%	-5.2%	57.5%	63.0%	-5.5%	53.2%	61.1%	-7.9%				30.2%	37.1%	-6.9%	40.2%	45.1%	-4.9%	31.4%	27.7%	3.7%
理科	84.8%	90.4%	-5.6%	51.6%	57.2%	-5.6%	58.8%	67.4%	-8.6%	52.2%	49.6%	2.6%				58.0%	60.1%	-2.1%	26.0%	30.2%	-4.2%	36.6%	45.4%	-8.8%
英語	78.5%	82.8%	-4.3%	32.4%	39.1%	-6.7%	58.4%	64.1%	-5.7%	42.6%	46.7%	-4.1%				60.1%	64.6%	-4.5%	37.6%	47.8%	-10.2%	43.5%	49.9%	-6.4%

A層～D層分布図

	国語			社会			数学			理科			英語		
	正答数	人数	割合	正答数	人数	割合	正答数	人数	割合	正答数	人数	割合	正答数	人数	割合
A	39	39	20.0%	57	57	29.4%	38	38	19.6%	43	43	22.2%	40	40	20.7%
B	50	50	25.6%	42	42	21.6%	49	49	25.3%	57	57	29.4%	47	47	24.4%
C	50	50	25.6%	44	44	22.7%	48	48	24.7%	44	44	22.7%	38	38	19.7%
D	56	56	28.7%	51	51	26.3%	59	59	30.4%	50	50	25.8%	68	68	35.2%
受験	195			194			194			194			193		

* A層～D層は調査者を正答数の大きい順に整列し、人数比率により25%刻みで4つの層に分けたもの。経年比較により各層の推移を捉え指導に生かしていくねらいを持つ。

到達目標値・習得目標値達成の割合

	国語			社会			数学			理科			英語		
	正答数	人数	割合	正答数	人数	割合	正答数	人数	割合	正答数	人数	割合	正答数	人数	割合
習得目標値未満	14	14	7.2%	9	9	4.6%	59	59	30.4%	18	18	9.3%	14	14	7.3%
到達目標値達成	72	72	36.9%	26	26	13.4%	18	18	9.3%	23	23	11.9%	20	20	10.4%
到達目標値～習得目標値	109	109	55.9%	159	159	82.0%	117	117	60.3%	153	153	78.9%	159	159	82.4%
	195			194			194			194			193		

* 到達目標値とは東京都が定めた達成することが期待される数値(教科書の練習問題レベルの問題数)、習得目標値とは全員がクリアしていかなければならない数値(教科書の例題レベルの問題数)のこと。